

【報告書】当事者の視点から期待する—これからの入院制度についての意識調査—

一般社団法人精神障害当事者会ポルケは、「当事者の視点から期待する—これからの入院制度についての意識調査—」を2022年4月23日～5月4日の期間にWEBフォームを通じて精神科・心療内科に現在通院・入院をしている方を対象に実施しました。おかげさまで、220件もの回答を集めることができました。この場をお借りして、ご回答、ご周知等の協力を感謝申し上げます。

これまで本会が行っている当事者交流「お話会」や相談を通じて、精神科病院での入院についての経験や入院制度について様々な考え方が寄せられてきました。精神医療が良いか悪いかといった二項対立ではなく、当事者団体として一人ひとり当事者の声や気づきを広く社会に発信することが必要と考えています。その際、ネガティブな経験が繰り返されないためにどうしたらよいのか、ポジティブな経験はもっと広がるためにどうしたらよいのかといったような観点を留意することが必要と考えています。そのため、今回のアンケート調査では回答者の負担感を考慮しつつ選択式の設問以外に、自由記述の設問を用意しました。

さて、今回の調査結果では医療保障について当事者が重要とするポイントが明らかになりました。最も重要とする項目は、「医師から説明を受けて安心して医療を受けられる」といったインフォームドコンセントに関するものでした。次いで、自分が希望するときに受診、医療を受けられるといった自己決定に関する項目でした。なお、「入院治療は、誰かに強制されるかたちではなく、自分で判断したい」といった考えについての設問では、回答全体の91%から共感を示す回答が示されました。一方で、自傷他害といった緊急性がある場合の非自発的医療を許容する考えについては、共感を示す回答は全体の74%にのびりました。ただ、その必要性の判断に逡巡する声も多く聞かれました。許容は示しつつも、その範囲を限定したり、尊厳を守る必要性を訴える回答も数多く寄せられており、現行の枠組みからの変更が求められます。「医療保護入院が廃止されても医療が受けられなくなる不安は感じていません。むしろ、医療保護入院によって医療不信になり、かえって医療保障と遠ざかってしまいます」といった切実な回答も寄せられています。

現在、「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」は大詰めを迎えています。この検討会では、国から初めて医療保護入院の廃止という画期的な文言が示されました。これについては、後日文言の削除がありましたが、修正後の書きぶりを支持する声がおおよそ20%と限定的であったのに対して、修正前の書きぶりの「将来的な廃止を視野に入れて縮減に向けて検討」を支持する声が自由記述含めて過半数を超える結果となりました。医療保護入院の廃止については、検討会において当事者の立場だけではなく、家族会の立場の構成員などからも積極的な賛意が示されています。この方向性を本会としても強く支持します。一方で、今回の調査からは、「医療保護入院制度を廃止することは必要としながらも、どうやって医療保護が必要だと考えられる患者をサポートしていくか」「看護師の人員配置を増やすなどの措置も必要ではないか」といったコメントも寄せられています。とても大事な指摘だと考えます。ほかにも、制度の在り方、現場の在り方、地域精神保健福祉のオルタナティブなど多岐にわたる貴重な意見が寄せられています。この報告書資料が各方面で活用されることを切望いたします。ご希望の方は、お気軽に本会までお問い合わせください。

今年の夏には障害者権利条約の第1回目となる締約国審査という大事な局面を迎えます。本会ではこの調査報告を活用しながら、関係諸団体と協力をして当事者の権利擁護、制度作りに向けてアクションを引き続き行ってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

2022年5月6日
一般社団法人精神障害当事者会ポルケ
代表理事 山田悠平

1) 回答者について(属性)

■あなたの精神科・心療内科の受診歴を教えてください。

⇒精神科・心療内科の受診歴が10年以上の人が、全体の**72.9%**と最も多くなりました。

■精神科病院への入院歴の回数を教えてください。(「ない」場合は0としてください。)

⇒入院経験のある人は全体の60%を占めました。10回以上入院したことがあると回答した人は13人いました。

■(入院経験のある方に)入院した最も長い期間を教えてください。

⇒半年以上の長期にわたる入院の経験者は**48人**でした。最も長い人で**6年半**でした。

■医療保護入院の経験はありますか？

⇒医療保護入院の経験があると回答した人は回答全体の**27.1%**でした。

■あなたの年代を教えてください。

・10代から70代までの幅広い層の年代から回答がありました。回答者の中で最も多かったのは40代の29.0%、次に30代が25.7%となりました。

■あなたのお住まいの都道府県を教えてください。

・全国35都道府県から回答を寄せていただきました。

2)入院についての考え方

■「症状がわるくなった時や服薬調整などに、希望する入院治療が受けられることが大切である」といった意見についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。

⇒希望する入院治療を受けることの大切さについて共感を示す回答が全体の**86.2%**を占めました。

■「入院治療は、誰かに強制されるかたちではなく、自分で判断したい」といった意見についてあなたの考えについて最も近いものを選んでください。

⇒入院治療の必要性について自分で決めたいという考えについて共感を示す回答は全体の91%を占めました。

※非自発的入院についての自由記述(抜粋)

「入院させられたのはなぜか？ということ自体が悩みとなり、他のことを積極的に考え難くなる場合が多くある」「抑制措置を受けたことがあるが、興奮状態が鎮まってからも長い間抑制され非常に不快だったため」「納得できないまま入院をし、主治医や家族のことが信じられなくなった経験があるため」といったように入院医療の強制については否定的な声が多く聞かれました。また、「60年前に無理矢理に入院されたことによるトラウマは何十年経っても残っています。20年前に再発の危機を感じた時にも入院は選択肢にはありませんでした。本当は安心できる環境であれば入院できる方が良いのかもしれませんが。」といったような現状の精神科医療を憂う声も寄せられました。

■「自分が希望しない不本意な形で入院治療を受けることになった場合、医療への不信が高まり、退院後も治療に前向きになれなくなる」といった意見についてあなたの考えについて最も近いものを選んでください。

⇒非自発的入院を経験することで医療不信が高まり、退院後も治療に前向きになれなくなるという考え方に共感を示す回答は全体の**83%**にのびりました。

■「自分は入院をしたくなかったが、親の同意により入院(医療保護入院)をしなくてははいけなかった。自分の中でうまく気持ちの整理がつかず、関係修復が難しく悩んでいる」といった意見についてあなたの考えについて最も近いものを選んでください。

⇒医療保護入院を経験したことで親子関係に悩むという考えに共感を示す回答は、**83%**にのびりました。

■「なにがあっても入院は絶対にしたくない」といった意見についてあなたの考えについて最も近いものを選んでください。

⇒「なにがあっても入院は絶対にしたくない。」といった意見についての評価は拮抗する形となりました。ただし、医療保護入院の経験者については「なにがあっても入院は絶対にしたくない」という意見に 65%の人が共感を示す回答をしています。

3)最近の報道に関連して

医療保護入院制度について国の検討会では様々な意見が交わされています。これについてのあなた自身の考えをお聞かせください。

■検討会資料の書き方についておたずねします。当初、国が検討会で示した資料は、今後の医療保護入院制度について「将来的な廃止を視野に入れて縮減に向けて検討」と書かれていました。その後「将来的な継続を前提とせず、縮減に向けて検討」へと文言が変更されました。この修正について、一部の報道では、「表現を後退させた形」とあると指摘があります。これについてあなたの考えをお聞かせください。

⇒変更後の文言を支持する声は 20%と限定的でした。「将来的な廃止を視野に入れて縮減に向けて検討」という書き方を支持する声は最も多く、43.8%でした。自由記述を含めると過半数の人の支持がありました。

■「医療保護入院の廃止により、医療保障されなくなるのではないかという不安の声が出ている」とされる患者や家族の意見として、紹介されることがあります。あなた自身は、どのような形の「医療保障」があると良いと思いますか？もっともよいと思うものをひとつ選んでください。

⇒医療保障として最も望まれるものは、「医師から説明を受けて安心して医療を受けられる」といったインフォームドコンセントに関するものでした。次いで、自分が希望するときに受診、医療を受けられるといった自己決定に関するものでした。なお、強制を伴う医療を医療保障とする回答は 13%とかなり限定的でした。

4)経験や気づきによる自由記述

■入院経験のある方におたずねします。入院中にあなた自身にとって「良かった」と思えることがあれば、ほかの人にも経験してもらいたいという観点から記述をください。(任意)

⇒回答:84 件(以下、抜粋)

他の入院患者と、悩みを相談出来たのが良かった。
主治医とはなしして薬の調整ができて症状もよくなった。
看護師さんにいろいろと相談に乗ってもらってよかった
希死念慮が強い時、身の保護ができる。
辛い状況から一旦避難できる。しっかり休息した上で判断できる。

■入院経験のある方におたずねします。入院中にあなた自身にとって「悪かった」と思えることがあれば、ほかの人にも経験してほしくないという観点から記述をください。(任意)

⇒回答:94 件(以下、抜粋)

隔離拘束がとても怖かったです。
スマホが使えない。一定のルールを定めても使用を認めてほしい。
もっと患者に自由をくださいと訴えたいほど、閉鎖病棟には自由がなかった。
鉄格子の扉。早く退院したかったので医師看護師に嫌われないようにしていた。列に並び順番が来ると口を

開けて薬を入れられる
同意も説明もなく、いきなり鎮静化作用のある注射を打たれたこと

■ほかになにか関連してお伝えしたいことなどあればお教えてください。(任意)

⇒回答:60件(以下、抜粋)

医療保護入院が廃止されても医療が受けられなくなる不安は感じていません。むしろ、医療保護入院によって医療不信になり、かえって医療保障と遠ざかってしまいます。
精神病者の社会的包摂を進めるべき。我々は怖くないんだよということを伝えたい。
入院を必要とすることが私にもあるので、まずは精神科の看護師さんの数を一般病棟と同じにして欲しい。そうすると、自然に改善する部分が沢山あると思う。
普通に社会で生きる場が治療の場であるような制度を作りつつ、病院自らが地域に協力する開かれたものになってほしいと思います。
現実的でないかもしれませんが、命の保護と患者への丁寧な説明ということをしっかりと実施し、安心して療養できる環境で入院サービスを提供してほしいです。
誤っている精神障害者への、ニュース報道無くして欲しいです。
精神科医療を人員などを含めてもっと充実すべき。
自由に電話ができない。私ではないが先生に歯向かうと保護室に入れられた患者さんがいて恐ろしかった。

5)アンケート調査実施概要

- 回収方法:WEB(Google フォーム、メールアドレス登録識別を実施)
- 募集期間 2022年4月23日～5月4日
- 回答対象者:精神科・心療内科に現在通院・入院をしている方
- 回答数:220件
- 実施:一般社団法人精神障害当事者会ポルケ
- 問い合わせ先:<https://porque.tokyo/contact/>



【緊急アンケート】
当事者の視点から期待する
—これからの入院制度についての意識調査—
回答締め切り 5月4日まで

一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

